

---

# **被害者の手記**

肩あげポテト

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

被害者の手記

### 【Zマーク】

N7191B

### 【作者名】

肩あげポテト

### 【あらすじ】

俺はお菓子を食べている途中に殴り倒された。痛かった。死にそうだ。

痛い。背後から殴るなんて卑怯だと思つ。

俺を殴つた奴は何処へ行ったのだろうか。まだ部屋の中に居るのか、それとももう逃げたのか。それを確認することもできない。身体がいつことを利用かない。

「うう…」

大声を出そうとするが嗄れきつた細い声しか出なかつた。声を出すと頭がガンガンしたのでもう声を出そうと頑張るのはやめた。頭を触つてみる。凹んでいた。みんなからは「綺麗な黒だね」と褒められていたが、今はそんな面影もなかつた。

俺は部屋に居た所を襲われた。お菓子を食べている時に襲つなんて卑怯だと思う。

俺はおどろいた。振り向こうとした瞬間、スプレーを浴びさせられた。身体の動きが鈍くなつた。相変わらず卑怯だ。

逃げようと走り出した瞬間、ベシッと鈍い音がして、背後から殴られたと気づいた。衝撃で俺は部屋の隅まで飛ばされた。血を吐き出した。目は左目から血が出ていた。目が飛び出さなかつただけよかつたと思うが、よく考えると全体的にはよくなかった。

「ぐつ…」

頭がガンガンした。脳の中で爆弾が弾けるような、そんな感じがした。もう俺は終わりか。親孝行はしていないな…。したかつたな…。

そんな祈りは届く筈もなくて、確実にタイムリミットは近づいていた。

両腕の感触がなくなつた。これが『死』かと思つ。これが『死』といえものなのだ。暗闇に身を委ねる、これが死というものだ。

おれはまだしにたくない。おやじやおふくろはかなしむだらう。おとうとはないてしんでしまうかもしね。だからおれはしんじやいけない。いきてやる。こきてやるぞー！

\*

「どうめはをしたよ、これで確實に死んだ」  
彼はこっちをむいて微笑んだ。ありがとう、と私は返した。  
「じゃ、こんどなんか奢つてもらうからね？」  
そんな話は聞いていない。だめ、と返すと彼は、[冗談だよ]と笑い、  
忌々しい害虫の死骸を袋の中に入れて、新聞紙と一緒にゴミ箱に放  
り込んだ。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7191b/>

---

被害者の手記

2010年10月8日21時08分発行